



国際ロータリー第2680地区
Rotary
加古川ロータリークラブ



2019-20年度 RI会長; マーク・ダニエル・マローニー / 地区ガバナー 浅木 幸雄
加古川ロータリークラブ会長; 枝川 潤一 / 幹事; 大辻 利紀
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

令和2年6月2日(火) 晴 No. 33



▲会長挨拶



▲新入会の竹田 潔会員

会長の時間

会長 枝川 潤一

< 試行的な例会再開 >

会員の皆様、お久しぶりです。

この度は Covid-19 の世界的大流行に伴い当クラブでも3ヶ月にわたって例会を休止し、本日ようやく顔を合わせる例会を再開することが出来ました。この間繰返し臨時理事会を開催し、週報については例会がなくても月1回は発行してきたところです。

さて6月の例会については既にご連絡しましたように、試行的に感染防止対策を講じて開催することとし、会場はプラザホテル2階の広い部屋を使い、出席時マスク着用、入口で手指消毒、諸行事の簡素化を図り、本日は食事なしとしています。

こんな形では本来のクラブ例会の魅力が損なわれ、ロータリーを楽しむには程遠い状況であることは重々承知おりますが、with Corona の1回目の試行的な例会ということで、会員の皆様にはいろいろとご迷惑をおかけしますが、なにとぞご高配のほど宜しくお願い申し上げます。

なお、6月の例会に関しては会員に出席義務はなくメイクアップの必要もないことを当クラブ理事会でも決定しています。従って、ハイリスクの方、出席したくないと思われる方、体調の悪い方は無理して出席されないようお願いしていたところです。それにもかかわらず本日は40名の会員の皆様に出席して頂き厚くお礼申し上げます。

本日はクラブ細則変更承認の件を決議いただき、その後クラブ協議会「1年間の反省」となっていますので、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、森田会員叙勲おめでとうございました。また本日は新会員として竹田潔さんをお迎えしております。後ほどご紹介ご挨拶を頂きたいと思っております。これで本日の会長の時間を終わります。

< 追記 > 次週の例会より食事を開始致します。

幹事報告

- 1) ローターレート変更のお知らせ
6月1日より1ドル108円(現行107円)
- 2) BOX に最終例会のご案内・次年度組織表を入れております。
- 3) 新会員の入会について、通常は最初の例会出席日が入会日となりますが、コロナウイルスの関係で、石井嘉彦会員、北山修二会員、潮見浩司会員、竹田潔会員の入会日は6月2日とさせていただきます。
新会員の配属は全員親睦活動委員会と国際奉仕委員会です。
- 4) 例会の場所について、来週6月9日、16日の例会場所も加古川プラザホテル2階に変更させていただきます。また、23日(火)は25日(木)午後6時～の最終例会に変更のため、例会はありません。
- 5) 一斉メールでもお伝え致しましたが、本来は5月よりクールビズのスタート月間となっておりますが、会員の皆様には6月からのスタートとさせていただきました。

定例理事会

《審議事項》

- 1) 最終例会に関する件
運営など細部変更については委員長に一任して承認
(例会時間について通常時間に戻し食事は実施し、提供方法は、プラザホテルによる食事とアルコールその他ドリンク提供となります)
- 2) 100万ドル食事差額ロータリー財団寄付に関する件
20万寄付する事で承認(1000ドルをポリオへ、残りを財団へ)
- 3) 例会場花代に関する件
オーミケンシ(株)様へ5万円御礼することで承認
- 4) 五田博会員退会に関する件
6月30日をもって退会することで承認
- 5) 岡井務会員退会に関する件
6月19日をもって退会することで承認
- 6) 福谷勝二氏(住友精化株式会社)推薦に関する件
推薦手続きを進めることで承認
- 7) 長谷川幸英氏(関西熱化学株式会社加古川工場)推薦に関する件
推薦手続きを進めることで承認
- 8) 桑田圭一郎氏(但陽信用金庫)推薦に関する件
推薦手続きを進めることで承認

ニコニコ



- 省 略 ☺ 春の叙勲にさいし旭日単光章の栄に浴し光栄なことで感激しております。ロータリーの皆様に厚くお礼申し上げます。
- 省 略 ☺ この度会社退任の為退会致します。5年間お世話になり有難うございました。コロナが終息しいつもの例会に早く戻れるよう祈念いたします。

以上2件 ¥15,000-
また、6月のお祝いを受けられた方々より ¥42,000-
¥57,000-
本年度累計¥1.693,000-

出席委員会

- ☆ 今 週 会員数 74 名 出席 40 名 出席免除 16 名 欠席 18 名
☆ 欠 席 者 省略
- ☆ 前々週(2/25) 会員数 77 名 出席 45 名 出席免除 20 名 欠席 12 名

親睦活動委員会

例会場当番

6月 9日(火) 久後、高田

6月 16日(火) 河合、竹位



プログラム委員会

本日6月2日(火)	6月9日(火)	6月16日(火)	6月23日(火)
クラブ協議会 一年間の反省	次年度委員会 I	次年度委員会 II	例会変更 最終例会 25日(木)午後6時～ 於;加古川プラザホテル 2階

ケニアのロータリアンがコロナウイルス感染拡大阻止に乗り出す

東アフリカでは、ソーシャルディスタンスが経済的に難しく「ぜいたく」とされる地域があります。ロータリークラブが連携し、これらの地域で手洗い場の設置や食料支援を行っています。

ケニアのナイロビでは市民の 80%近くが無認可居住区で生活しています。そこでは、日雇い労働者ら複数の世帯が一つ屋根の下で暮らす光景も珍しくありません。店員や建設作業員、家庭内労働者として稼いだわずかなお金で日々を生き抜くこれらの人たちは、狭い空間で 8 人も人が料理や宿題、食事、睡眠といった生活を共にしています。

経済的に余裕のない多くのケニア人にとって、ソーシャルディスタンス(人との距離を空けること)は、言わば「ぜいたく」です。

「北米などで発生している新型コロナウイルスの大流行がケニアでも起これば、悲惨な結果となるでしょう」。ソーシャルディスタンスの難しさを指摘しつつ、こう語るのは、ムサイガ・ロータリークラブ会員のギータ・マネクさん(ロータリー財団管理委員エレクト)です。「予防策を徹底し、ウイルスに感染しないよう必至にがんばっています」

世界保健機関が新型コロナウイルスのパンデミック(世界的流行)を宣言した直後、ロータリー第 9212 地区(エリトリア、エチオピア、ケニア、南スーダン)ガバナーのジョー・オティンさんは、全地区にまたがる対策チームを立ち上げました。ナイロビ-イースト・ロータリークラブのジョー・カマウさんがリーダーを務めるこのチームは、地区内のクラブと連携し、手洗い場の設置、職を失った世帯への食事の支援に加え、人びとに配布する防護具を購入するためのファンドレイジング(資金調達)を行いました。



「世界は今、かつてないほどロータリーを必要としています」

金属製の台に設置された水タンクは 100 リットルを貯水でき、下部には真ちゅう製の蛇口が取り付けられ、石鹸置きも備えている。

「まず何から始めようか、とカマウさんが尋ねたので、手洗い場の設置から始めようと答えました」。対策チームメンバーのマネクさんはこう回想します。

マネクさんは、エチオピアとケニアでファンドレイジングの先頭に立ち、20日間で21,000万ドル以上を調達。さらに、集まった寄付に対してケニアのプライム銀行が同額を上乗せして拠出することを申し出ました。チームはこの資金で水タンク100台購入し、さらにタンク納入業者からも追加100台の寄付を確保しました。金属製の台に設置されたこの水タンクは100リットルを貯水でき、下部には真ちゅう製の蛇口が取り付けられ、せっけん置きも備えています。対策チームはこの手洗い場をキリフィ、モンバサ、ナイロビの各所に設置し、現在は国家衛生局と協力して次の支援地を絞り込んでいます。現在、トラックでタンクの交換をしています。が、当局は配管して水を補給する方法を検討しています。

ロータリアンと共に奉仕プロジェクトに参加する市民から成るグループ「**ロータリー地域社会共同隊**」は、現地の人びとに効果的な手洗いの方法を教えながら、人びとが手洗いのために戻ってくる回数などのデータも収集。また、ケニア都市部のスラム街で少女や女性の支援、擁護、教育に取り組む市民団体「**Shofco**」とも連携し、手洗い場の監督を行っています。

さらに対策チームは、手洗い場に来た人びとから、食料が不足している家庭に関する情報を集めています。在宅勤務命令が出されたことにより、日雇い労働者たちは生計を立てられなくなっているとマネクさんは指摘します。そこでクラブは、日雇い労働者らに砂糖、トウモロコシの粉、米、平豆、塩、石鹼などが入ったパッケージを配布しています。



クラブは、砂糖、トウモロコシの粉、米、平豆、塩、石鹼などが入ったパッケージを配布しています。

一方、最前線で闘う医療従事者に配布される防護具の入手は、さらに困難になりつつあります。納品業者や寄付団体に掛けあい、医療用マスクとガウンを確保しようと試みているものの、入手できる数は限られており、またそのほとんどが空輸のため、非常に高く付くとマネクさんは言います。

この危機においてプラスの要素があるとすれば、ロータリアンの熱意の高まりによって他団体からの注目が集まっていることが挙げられます。

「ロータリアンはいつでも真っ先に現場で活動してきました」とマネクさん。「ロータリーの活動を知り、協力したいと考えている銀行や保険会社など、企業からも協力の申し出が来ています」

\$ 21,000

ケニアとエチオピアでマネクさんが20日間に調達した資金

200

最初に配布された水タンクの数

100

水タンクの容量(リットル)

母国ケニアに最も力を注ぐマネクさんですが、他のロータリアンたちもエリトリアやエチオピア、南スーダンで活動しているそうです。

「この取り組みを通して、これまで存在すら知らなかった数多くの団体の方々と出会うことができました。もし存在を知っていたとしても、他団体や他団体、私たちは私たちと、別々に活動していました」とマネクさん。「今では、私たちの周りに人びとがどんどん集まってきます。この人たちは、信頼できるパートナーを探しており、単なる有力者や、方向性がわからない団体には資金を出したくないのです。ロータリーが世界に示してきた価値観が、やっと認知されるようになったのです」

「ロータリークラブの存在意義と究極の目的は、助けを必要とする地域社会に寄り添い、支援することです。世界は今、かつてないほどロータリーを必要としています」とオティンさんは語ります。